

うひはたぶみ

(初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第82号

2024(令和6)年11月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

靴下生産量日本一 — 貸織に代わる農家の副業として —

奈良県が靴下の生産量で日本一を誇ることはよく知られているところです。平成24年(2012)2月号の『県民だより奈良』に掲載されている「統計から知る奈良」には、以下のように記されています。

靴下生産量日本一！ 国内シェアは34.3%で、ソックス(短靴下)だけなら約56%を占めます。県内では1位が大和高田市(約33.6%)、2位が広陵町(約19.8%)、3位が香芝市(約19.4%)となっています(日本靴下工業組合連合会調べ)。

そして、その背景がコラムとして掲載されています。以下の通りです。

奈良県で靴下の生産が多いわけ— 明治43年頃、現在の広陵町の人が、アメリカから靴下の機械を持ち帰り、農業の副業として始まった靴下づくり。奈良県は農地面積が狭く、副業をせざるをえなかった実情と、繊維問屋の集積地である大阪に近いという利便性、ナイロン糸をいち早く取り入れたことなどから、靴下づくりが盛んになりました。

靴下生産量日本一の地位は現在も揺らぐことなく、2位の兵庫県以下を大きく引き離しています。

靴下づくりが農家の副業として急速に広まった背景には、大和の綿作と大和木綿、大和絣の隆盛と衰退が大きく影響しています。明治時代中期までは全国的にも名を馳せた大和木綿、大和絣が明治時代末には市場を失い、衰微の一途をたどる中、「貸織農家の大部分が靴下編に移っていったのが出発である。一方、馬見村(現広陵町)の吉井氏による授産所の開設による靴下製造の貢献も大きいものであった。」と『奈良県靴下のあゆみ—奈良県靴下工業発展史』(菊浦重雄編、奈良県靴下工業協同組合、昭和39年)の「はしがき」(1頁)に記されています。奈良県の靴下製造は、吉井泰二氏が明治43年にアメリカからフライス手回し機を買入で、農村副業としての木綿の靴下編みに取り組んだのがその始まりとされています。ただ、その後の歴史は必ずしも順風満帆だったわけではなく、『広陵町史』(昭和40年)によれば「吉井氏は数年後に死去して同家の事業は中絶したが、同じ村で綿布業を営んでいた(野村)隆一郎氏の父藤蔵氏が、同年12月に当時の金で1台200円のB式手回し機10台を買入で靴下製造をはじめた。翌44年に…隆一郎氏も父の新事業を助けて靴下製造に専念することになった」(43頁)と記されているなど、多くの人たちの奮闘努力、幾多の変遷と浮沈の歴史があったようです。

「奈良県靴下工業が社会的地位を与えられたのは、昭和12年以降、…原糸割当をめぐって、問屋資本が排除され、…大部分の靴下業者がはじめて自立し、独立的企業形態をととのえることが出来たのである。…しかし、奈良県靴下業界が内外ともにわが国の靴下業界で重視されたのは戦後…、戦後というよりも昭和30年前後であり、これすなわち、東洋レーヨン→蝶理を通じて導入された、ウーリー・ナイロン糸との結びつきにある」(前掲書『奈良県靴下のあゆみ』「はしがき」2頁)と記されています。奈良県が靴下生産量日本一に至るまでの経緯が、各種データに基づきながら詳細に検証されている『奈良県靴下のあゆみ』は、その背景としての大和木綿、大和絣の隆盛と衰退の過程を知る上でも貴重な一書となっています。



広陵くつした博物館(広陵町)

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年10月26日～令和6年11月25日)

福島県1、埼玉県1、千葉県1、島根県2

【H. A. M. A. 木綿庵】(令和6年10月26日～令和6年11月25日)

メールを含む各種相談件数7、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数9組110名(団体2組)



《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版 その8 －

11月に入り超長纖維綿が収穫最盛期を迎えています。今年は9号畑(31m畝1筋)と12号畑(25m畝1筋)とで超長纖維綿を栽培しました。とくに9号畑の開絮ぶりが良好です。これは9号畑では綿畝の隣畝でトウモロコシの抑制栽培をしていたため、定期的に畝間灌水を施していたことが好影響を与えたのかもしれません。9号畑は木綿庵が管理している1号～14号の畑の中で唯一、吉野川分水からいつでも自由に引水できる畑であるからです。

【写真は左から11月7日の超長纖維綿の畝と収穫籠。11月3日の収穫祭－草木染の様子】



《収穫祭2024：綿畑の観察＆草木染め、を開催》 令和6年11月3日(日)

10号畑にてまず綿栽培の歴史、品種と、今年の作柄について説明。その後は綿摘みと平行して、草木染めを行いました。今回の染材は花梨(カリン)の葉。媒染は草木灰の灰汁。イベント時はレモン色に染まり、一晩浸け置いた布は赤茶色に染まりました。参加者は5組10名(草木染は4組7名)。

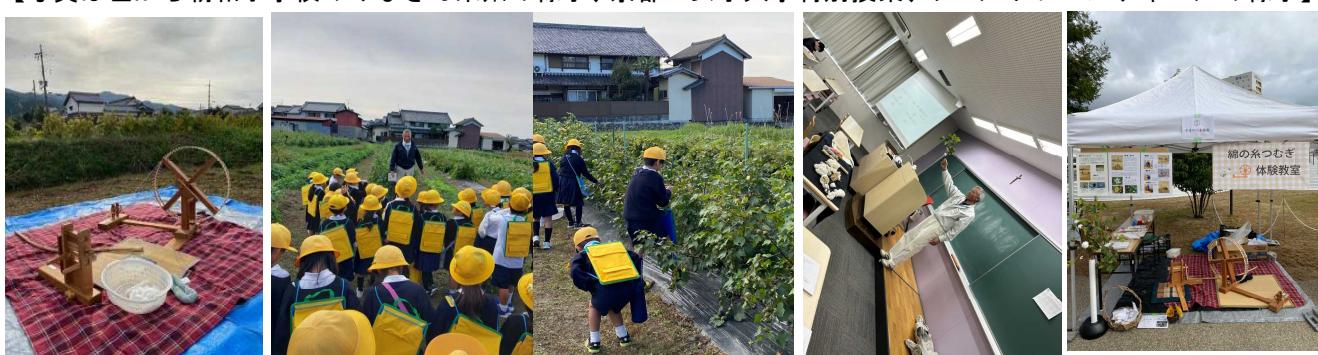
《天理市立朝和小学校1年生のみなさん綿摘み体験》 令和6年11月8日(金)

6月5日に小学校で1年生全員(70余名)が1粒ずつセルポットに播種。学年花壇で育苗後、6月19日木綿庵の畑に定植した綿木から綿摘み。園場では綿繰り、綿打ち、糸紡ぎも披露。お土産に茶綿をプレゼント。

《京都ノートルダム女子大学にて、特別授業を担当》 令和6年11月14日(木)

「日本年中行事論」の学外ゲスト講師としてお招きいただき、1コマ90分を担当。「棉から綿へ：ひと粒の種が布になるまで」というタイトルでPPTと動画を用いて授業を展開。受講生は約40名。

【写真は左から朝和小学校のみなさん来畑の様子、京都ND女子大学特別授業、ワールドフェスティバルの様子】



【研修等の記録】

- ・令和6年11月02日 天理大学ふるさと会の集いにてWS「綿の糸紡ぎ体験教室」を担当
- ・令和6年11月03日 H.A.M.A.木綿庵の収穫祭：「2024秋・綿畑の観察＆草木染体験」を開催
- ・令和6年11月08日 天理市立朝和小学校1年生のみなさんが来畑。綿摘み体験、糸紡ぎ、綿繰り等を説明
- ・令和6年11月09日 (株)タビオ(北葛城郡広陵町)のTABIO'S COTTON 収穫祭に参加
- ・令和6年11月09日 八尾市立歴史民俗資料館(大阪府八尾市)の特別展「筒描藍染めの婚礼布団」鑑賞
- ・令和6年11月11日 木綿織り作家の陽山めぐみ様(生駒市)の工房を訪問。作品の数々を拝見。
- ・令和6年11月13日 天理市役所農林課にて、全国コットンサミット天理大会の予算等についてご相談
- ・令和6年11月14日 京都ノートルダム女子大学(京都市上京区)にて、特別授業「棉から綿へ」担当
- ・令和6年11月21日 天理市役所産業振興課の職員さんが来畑。園場と綿の加工工程をご案内
- ・令和6年11月23日 障害者入所施設「吉野学園」(吉野郡大淀町)の収穫祭に参加
- ・令和6年11月24日 ワールドフェスティバル天理2024(天理駅前)に出店。WS「糸紡ぎ体験」を担当